

大規模・長期停電を経験しての検討課題

台風15号に伴う6日～7日間もの豊和地域全域の停電は、これまでの想像を超えたものでした。大規模停電の中で、「市民エネルギーちば」は、開畑にある同社のソーラー発電設備を使って携帯電話やスマホ、パソコン等の無料充電所を開設しました。地域の人たち等、4日間で50名程度の人たちが活用してくれましたが、その周知を含めて十分に活用されたとは言えません。また、20箇所近くある発電設備で地域に開放できたのは市民エネルギーちばの一設備に止まりました。

今後、こうした事態が起きた場合には、今回の経験を生かし、発電設備の有効活用が必要です。

- 1 全ての設備が大規模停電時に電気を活用できるようにする。
 - ①既にある設備については、発電事業者の理解を求めて停電時に電気を解放できるように設備の改修を進める。そのために必要となる費用（一設備で約5,000～10,000円程度）については、基金から出す。
 - ②今後作られる設備については、上記の機能を持ったものにしてもらう。
- 2 停電時に活用できる体制の構築
 - ①事前の周知の徹底
 - ②発電事業者との協定と運用体制の構築
 - 地域サイドの主体はどこに置くか・・・市、豊和区、or村づくり協議会
 - 運用主体には地元の事業者である市民エネルギーちばが入るのは技術的にも必要
- 3 あれだけの発電設備があり発電しているにもかかわらず、その電気を地域の家庭で何故使えないのかという素朴な疑問や声があった。その点についての地域の人たちへの理解を広めていくことも必要ではないか？ その中から、長期展望として大規模停電時に設備の電気を地域で使っていく道筋も切り拓かれていくのではないか。
 - 蓄電池の導入による夜間電力の確保
 - EVカーを利用しての必要な場所への電気の配達、供給
 - 洗濯機や乾燥機、炊飯器等も使えるような設備
 - 地域で自立した電力網も地域の理解と協力があれば夢ではない